てっぺんの葉っぱ

一歩をふみ出せる自分

5年　A・Kさん

（よし、やってみよう）。マチは自分で決めた。もやもやした心をふりはらうように、ユリアちゃんを教室の外へ連れ出した。二人は花びんの水をかけ合い、そして笑い合った。その時のマチは頭の声が止んで、体が勝手に動いているみたいだ。

僕にも似たような経験がある。好きな折り紙を係活動にしたくて、五年生になった時、新しい係として先生に提案した。勇気がいったが、「やってみたい」という気持ちを大切にしたかった。今では、誕生日のクラスメイトにプレゼントを作ったり、季節の折り紙をかざることで教室がにぎやかになり、とても評判がいい。

マチもあの時行動を起こさなければ、三人で仲良く歩くこともなかったかもしれない。「やりたい」という素直な気持ちがマチを動かす力になり、心は晴れ晴れとしているのだ。

しかし、やはり僕たち人間は考え続ける生き物だ。マチはずっと頭で考え続けているし、本音を友達に伝えられない。僕も口には出さないけれど、頭の中でもやもやして、気持ちをふうじ込めることがある。体が固まってしまったみたいに動けない。頭と心と体がバラバラになってしまっているみたいだ。いつもありのままの自分でいられたら、どんなにいいだろう。

そんな時、マチにとって、少し心を軽くしてくれ、そっと背中を押してくれる存在がてっぺんの葉っぱだったのだろう。自分の心の唯一の味方だったのかもしれない。そんな存在があったからこそ、「やってみよう」と一歩をふみ出すことができたのだ。

頭で考えたことと、心で感じたことがいつも一致するとは限らない。もやもやする時もある。でも、頭で考えすぎて動けなくなった時は、自分の心の声に耳をすませて一歩をふみ出せる自分でいたい。